05 海岸林に広葉樹、高木×成長の良い低木の組み合わせを推奨

Webﾍﾟｰｼﾞ

技術のポイント

高潮被害で無立木となった徳島県の海岸林にクロマツと11種類の広葉樹苗を植えて成長を追跡した結果から、将来に海岸林を構成する高木種と、成長の良い低木・亜高木種を組み合わせて植栽するとよいことが分かりました。合計240本の成長を2年間観察したところ、クスノキやタブノキといった高木種には強い日差しによる葉の傷みがみられた一方、トベラやヤマモモ、ヒメユズリハといった低木・亜高木種は旺盛に成長しました。

連携・橋渡しの方向

高潮などの災害だけではなく、管理不足から高木が衰退して無立木となっている海岸林があります。海岸林の機能を取り戻すために西日本の太平洋岸で取り組んでいただける技術です。

詳細情報

・研究成果：
https://www.ffpri.affrc.go.jp/research/saizensen/2024/20240115.html
・論文等：森林立地，65(1)，3-12（2023）、森林立地，65(2)，69-79（2023）

担当者

四国支所・大谷達也

図1　高潮で枯れて伐倒されたクスノキの切り株と植栽1年後に元気に育つヒメユズリハ

ヒメユズリハなどの低木・亜高木種は1年目から旺盛に成長したため、高木種の保護樹として機能すると期待できます。

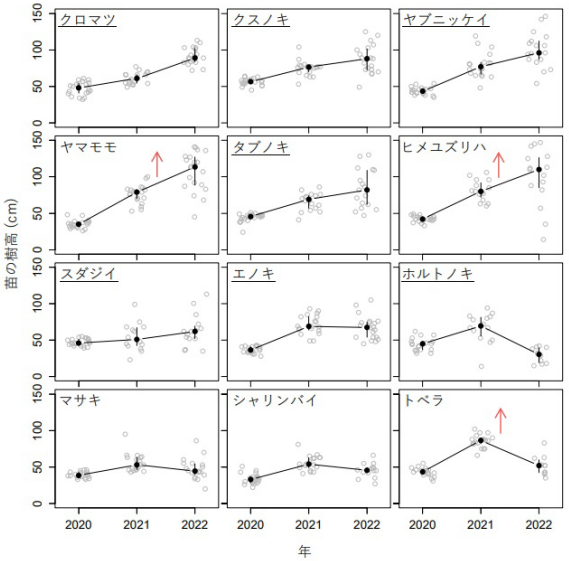

図2　植栽後2年間の12樹種の樹高成長

下線付きの樹種は高木種。矢印は1年目の旺盛な成長を示します。トベラなど2年目に激しいシカ食害を受けた樹種もあり、海岸林でもシカ対策が必要なことがあります。

森林産業実用化カタログ2025

お問合せ先
国立研究開発法人森林研究・整備機構　森林総合研究所
社会実装推進・知財戦略室
E-mail: sangaku@ffpri.affrc.go.jp
URL: https://www.ffpri.affrc.go.jp/sangakukan/index.html